

文字もじ MOJI の世界

38. 文字のかたちを考える

田原 恒二*

文字のかたち（明朝体編）

自分で手がけた書体を世に出してからは、フィールド調査と称して書籍で使われている書体を書店でチェックするようになった。平積みにされた新刊書籍の本文が、ぼくが関わった「凸版文久明朝」だったりすると「そうかそうか、よしよし」という気持ちで手に取り、しばし観察したのち元あった場所にそっと戻す。逆に、なんだかメリハリのないぼんやりした書体だと「うーん」などと思ったりする。

おそらく書体開発に携わっている人たちは、たいてい自分が関わった書体に対してこのような素行をしているのではないかと思うがどうだろう。

ぼくが主査を務める一般社団法人文字情報技術促進協議会（以下、協議会）の文字の知識部会という部会で、少し前に『文字のかたち』（明朝体編）という書体見本帖（図1）を作った。まあ、書体見本帖といつても『基本日本語活字見本集成』（誠文堂新光社）のような豪勢なものではなく、束もない24ページの小さな冊子である。

今回は協議会の活動紹介も兼ねてその話をしたい。ちなみにこの『文字のかたち』（明朝体編）だが、協議会のWebサイトから電子版がダウンロードできるようになっているので是非ご覧いただきたい。

この見本帖の誌面は、図2のようになっている。掲載書体は次のとおりで、協議会に加盟するフォントベンダーを中心に、代表的な13の明朝体を1ページに1書体ずつ掲載し、この一冊で各社の明朝体が見られる見本帖になっている。



図1
書体見本帖の表紙

- ・イワタ明朝体オールド
- ・ヒラギノ明朝体
- ・秀英明朝
- ・凸版文久明朝
- ・筑紫明朝
- ・小塙明朝
- ・リュウミン
- ・モトヤ明朝
- ・游明朝体
- ・源ノ明朝
- ・MS明朝
- ・華康明朝体
- ・IPA明朝

ストーリーと書体

いくつかユニークなところを紹介しておくと、まず地側にある縦組みと横組みの組み見本エリアを見てほしい。ここには宮沢賢治の『銀河鉄道の夜』がレイアウトしてあるのだが、テキストは先頭のイワタ明朝体オールドが掲載されているページの縦組みから始まって、その続きは次のページのヒラギノ明朝体の縦組みへ、その続きは次のページの秀英明朝の縦組みへと順々に続していく。そして最終ページのIPA明朝の縦組みまで到達したのち、IPA明朝の横組みへ続き、こんどは横組みでページをさかのぼってまたイワタ明朝体オールドまで戻ってくるという仕様で、この間ずっと



図2 『文字のかたち』(明朝体編) の内容の一部

と銀河鉄道の物語が読めるようになっている。

書体の味わいは、まとまった文章が組版されたものを読んだときに感じられるとよく言われるが、このようなことを体感してもらうために、読者にはあくまで連続する一つのストーリーを読んでもらい、途中で書体を切り替えてその違いを味わつてもらおうと試みたものだ。

書体の音

もう一つ、小口側に配置した二つの歌に注目してほしい。

ここは音を感じる見本エリアで、日本人なら誰もが知っている歌の『朧月夜』と『夏の思い出』が掲載されている。音を感じる見本とはどういうことかというと、ことばの音楽的な要素を味わってもらおうと試みたものだ。ことばの音楽的な要素とは、詩などを読むとよくわかるが、例えばこうだ。

かつば

かつぱかつぱらつた
かつぱらつぱかつぱらつた
とつてちつてた

かつぱなつぱかつた
かつぱなつぱいつぱかつた
かってきってくつた

谷川俊太郎著『ことばあそびうた』より。

このように、ことばにはリズムやアクセントが備わっていて、単なる情報ではなく人の息づかいが感じられるような音楽的な要素を伴っている。ならば書体によってその印象も変わるものではないか。掲載した二つの歌の歌詞を読むと、多くの人

が不思議と頭の中に歌のメロディが再生されるはずだ。そのとき、書体による微細な音の違いが味わえないかと考えて作ったものである。

書体を測る

それから、見本帖の前半には「明朝体の文字のかたち」、「日本語書体のいまとこれから」、「データで文字を見てみよう」という三つの記事を掲載している。これらは編集メンバーによる執筆や、分担して実施した実験やその考察結果などである。なかでも三つ目の「データで文字を見てみよう」(図3)という記事は特に傑作なので少し触れて

おきたい。

これは簡単に言うと、文字のかたちの黒いところと白いところ(字面、濃度、フトコロなど)をプログラムで計測し、それぞれの書体を数値で比較して考察したものである。実際に測ってみると、例えば文字のかたちや組版されたときの印象はまったく違うのに計測値は似ている項目が多い「秀英明朝」(大日本印刷)と「凸版文久明朝」(凸版印刷)や、何かとニュートラルな書体として語られることが多い「ヒラギノ明朝体」が、今回計測した全書体のなかでは数値的にも中央寄りの値が多くみられるなど、書体の印象と計測値との関係

	字面			濃度			フトコロ		漢字に対する面積率			重心(縦方向)		
	漢字	かな	英数字	漢字	かな	英数字	漢字	ひらがな	かな	英数字	漢字	かな	英数字	
①イワタ明朝体オールド	82.1%	46.2%	34.9%	22.6%	8.1%	10.3%	44.8%	5.3%	56.3%	42.5%	49.8%	49.0%	43.3%	
②ヒラギノ明朝体	84.3%	53.4%	37.4%	24.9%	10.7%	11.2%	46.9%	6.2%	63.4%	44.4%	50.1%	49.7%	47.7%	
③秀英明朝	85.1%	51.0%	31.7%	26.7%	10.7%	10.3%	46.7%	5.0%	59.9%	37.2%	50.2%	49.2%	46.5%	
④凸版文久明朝	85.4%	53.6%	36.0%	26.7%	11.5%	11.2%	44.6%	6.3%	62.8%	42.2%	50.2%	49.2%	43.2%	
⑤筑紫明朝	83.3%	50.1%	34.8%	24.5%	10.5%	10.4%	44.1%	5.7%	60.2%	41.7%	50.6%	48.7%	46.4%	
⑥小塙明朝	85.8%	62.1%	36.4%	24.8%	12.3%	10.9%	50.8%	7.0%	72.4%	42.4%	49.8%	50.4%	44.3%	
⑦リュウシン	83.3%	53.8%	36.9%	25.1%	11.4%	10.7%	41.3%	5.1%	64.6%	44.3%	49.5%	50.2%	44.1%	
⑧モトヤ明朝	81.2%	50.5%	37.5%	25.2%	10.9%	10.3%	42.8%	6.0%	62.2%	46.3%	49.9%	50.3%	45.4%	
⑨游明朝体	82.2%	48.8%	35.5%	22.8%	9.6%	10.2%	48.0%	5.4%	59.4%	43.2%	49.7%	49.3%	45.8%	
⑩源ノ明朝	84.0%	55.6%	39.0%	25.5%	11.7%	11.5%	47.7%	7.0%	66.2%	46.5%	50.1%	48.3%	44.8%	
⑪MS明朝	81.2%	54.9%	26.0%	20.4%	8.9%	7.0%	45.2%	6.2%	67.6%	32.1%	47.7%	48.3%	43.1%	
⑫華康明朝体	81.9%	55.2%	35.7%	23.5%	10.3%	8.9%	50.2%	8.3%	67.4%	43.6%	48.1%	47.7%	43.9%	
⑬IPA明朝	80.6%	53.9%	37.4%	23.4%	10.8%	10.1%	49.4%	6.7%	66.8%	46.4%	49.2%	49.8%	44.3%	

●計測対象文字
[A] 字面・濃度・漢字に対する面積率・重心
[漢字]
JIS第一水準: 2,965文字
JIS第二水準: 3,390文字
[かな]
ひらがな: 清音44文字
カタカナ: 清音44文字
[英数字]
英字大文字: 26文字
英字小文字: 26文字
数字: 0~9 10文字
[B] フトコロ
漢字: 草夏暮春東
重章京黄某 10文字
かな: おすなのぬはほ
まみむめゆる 13文字

仮想ボディ^⑨のサイズを100%としたときのグリフに外接する最小の矩形の面積の平均値

仮想ボディのサイズを100%としたとき、グリフの黒い部分の面積の平均値

漢字: 囲まれた部分の幅÷最大字面幅
かな: 囲まれた面積÷字面面積

漢字の字面を100%としたとき、それに対する英数字、かなの字面面積の割合

文字をひとつのまとまりと見立て、上から吊り下げる際にハラスメントが取れる位置を計測。表は縦方向下からの重心位置を%で表記

さっきの白服を着た人がやっぱりだまって小さな銀貨を一つジョバンニに渡しました。
かな最大⑥

さっきの白服を着た人がやっぱりだまって小さな銀貨を一つジョバンニに渡しました。
かな最小②

図3 『文字のかたち』(明朝体編) 内の「データで文字を見てみよう」

が興味深いのである。

これまでにもこのような計測による書体考察の試みはなくなく、例えば向井裕一氏の『日本語組版入門 その構造とアルゴリズム』(誠文堂新光社)では、「書体によって違う揺れの分布一覧」として文字のかたちを測定値にもとづいて、字種の大小、縦横比の揺れ、漢字・平仮名・片仮名間の分布状況がグラフで示されていてこちらも実際に興味深い。

ぼくらのこの取り組みはまだ始まったばかりだ。今後、角ゴシックや丸ゴシックなど、他の書体の計測や考察にもチャレンジしてみたいと考えている。そしていざれば、日本酒の味の五要素(甘・辛・酸・苦・渋)のように、書体の味わいも論理的に表現できたりすると、それはそれで面白いことだと思う。

そしてさらに、いまや AI の時代である。もしもしたら次号の企画では AI を取り入れた数値化ができるかもしれない。そうなるとますます興味深い結果が導きだせそうだ。

協議会の活動を通じて

去る 2019 年 2 月は立春のころ、印刷された『文字のかたち』(明朝体編)が納品され、編集メンバーと共有したときには感動した。時間はかかつたがいろいろ議論し、自分たちの手で編集・制作したものが見本帖というかたちになって手に取れるということは、単純に手ごたえのあるヨロコビに変わった。それはちょっと自慢もあり、自分で手がけた書体を書店で見つけたときの感覚に近いかも知れないなと思った。

また、今回の活動を通じてメンバー同士で話す機会が増え、仲良くなれたのもよかったです。毎回部会の後は反省会と称した懇親会を有志で開くよう

<https://moji.or.jp/wg/knowledge>

* TAHATA, Kyoji
凸版印刷株式会社 情報コミュニケーション事業本部 部長
〒112-9531 東京都文京区水道 1-3-3
kyoji.tahara@toppan.co.jp
一般社団法人文字情報技術促進協議会 文字の知識部会 主査

になった。このような交流をきっかけにビジネス的にも業界的にも人脈が広がっていくと、さらに意義のある活動になっていくだろう。

文字のかたち (ゴシック体編)

さて、部会ではすでに次号の『文字のかたち』(ゴシック体編)の企画に着手した。また、明朝体編のコンテンツをセミナーとして開催する企画も進行中である。

一方、COVID-19 の影響で当部会もオンラインでの開催が中心になったが、逆にそのおかげで全国どこからでも部会に参加しやすくなったので、今後はますます参加者も増えて議論が盛り上がるに違いないと期待している。

最後にあらためて、『文字のかたち』(明朝体編)では途中何度も議論が尽きず結論がなかなか出せなかつたり、原稿執筆が大幅に遅れたりしたが、根気強く編集・デザイン・執筆のサポートをしていただいた合同会社ランプライターズレベルの小林功二氏と有限会社フレスコの紺野慎一氏には、心から敬意と感謝を捧げたい。

これからは反省会もオンラインになるかもしれない。この人たちは文字のかたちについて何時まででも語ることのできる人たちである。今回その片鱗をこのように格好をつけた見本帖というかたちで示せたことは実に喜ばしいことである。文字のかたちっていろいろあって面白いよな、そういうことしばしばだ。

